様式第１号（第１０条関係）

2023 年度業務実績報告書

提出日　2024 年 1 月 5 日

１．職名・氏名　教授　小島　亜未

２．学位　　学位　博士　、専門分野　学術　、授与機関　神戸大学大学院人間発達環境学研究科　、授与年　2018 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 **学部：** 公衆衛生看護活動論Ⅰ（1 単位）　2 年生 公衆衛生看護活動論Ⅱ（2 単位）　3 年生 公衆衛生看護技術Ⅰ（1 単位）　3 年生 公衆衛生看護技術Ⅲ（1 単位）　3 年生 公衆衛生看護学実習Ⅰ（2 単位）　4 年生 公衆衛生看護学実習Ⅱ（3 単位）　4 年生 産業保健論（1 単位）　3 年生 卒業研究担当（3 単位）　4 年生 **大学院：** 看護政策論（2 単位）　1 年生
②　内容・ねらい ・公衆衛生看護活動を展開するために必要な知識・方法について講義または演習にて教授した。また、公衆衛生看護学に必要な看護実践能力の獲得に向け指導する。 ・産業保健論では、産業看護の目的と産業保健の制度とシステムを踏まえて産業看護活動の実際について教授する。 ・卒業研究では、科学的思考力を養い主体的に探究する態度と研究能力の基礎を身につけられるよう指導する。 ・看護政策論では、看護職が専門的な能力を十分に発揮し、社会に貢献しながら人々のニーズに応えるべき質の高い看護の提供を実現化するための法律や制度を教授する。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・学部授業では、毎回授業終了時にレスポンスシートを提出してもらい、理解度を確認するとともに、学生からの質問については、次回授業時にフィードバックするようにした。 ・理論を用いた地域アセスメントの授業の際、考える力を醸成する目的で、事前学習と事前課題を与え、グループワークでディスカッションの場を設けた。 ・行政保健師、産業保健師の経験を活かし、活動の展開の実際や専門職に求められる役割についてイメージしやすいように事例を通して伝えるようにした。 ・国家試験に対応できるように、ポイントを整理し授業や実習を行った。
(2)その他の教育活動
内容 ・公衆衛生看護学実習では、現場の保健師等と保健師教育についての意見交換、連携を図りながら実習指導にあたるようにした。

４．研究業績

(1)研究業績の公表
① 著書 【0 本】
② 学術論文（査読あり） 【0 本】
③ その他論文（査読なし） 【0 本】
④ 学会発表等 ＊１.労働者の HR-QOL とメタボリックシンドローム関連指標および生活習慣との関連、第 82 回日本公衆衛生学会総会、2023.11、小島亜未、篠原正和、古屋敷智之、加藤佳子 ２.メタボリックシンドローム関連指標と行動変容ステージおよび心理特性の関連、2023.11、加藤佳子、篠原正和、古屋敷智之、小島亜未 【2 件】
⑤ その他の公表実績 1. 令和５年度日本学術会議中部地区会議学術講演会「食と健康の最前線」講演 『健康につながる食行動を促進する要因の解明～食べる力･生きる力を育むためのヒント～』 2. 日本学術会議中部地区会議ニュース No154、2023. 11 内容掲載 3. 令和５年度坂井市食育市民ネットワーク交流会　講演と意見交換会のコーディネーター 『健幸は「食」から』2023. 12.　【3 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 1.令和５年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究 C　研究代表者 「行動科学を活用した睡眠マネジメントプログラムの開発」
(3)特許等取得
(4)学会活動等

５．地域・社会貢献活動

・福井県立大学開放講義に係る講師「日本の医療の現状と地域医療における看護職の役割～超高齢社会に関する現状と認知症～」北陸高校、2023.10.20 ・越前市と県立大、ＮＴＴ西日本の３者間協定締結による睡眠改善プロジェクト推進、睡眠改善プログラムの企画、評価方法への助言、効果分析等を担当。2023 年３月まで

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・卒業研究係 ・研究活性化 WG メンバー
(3)学内行事への参加
・オープンキャンパスオンデマンド配信「公衆衛生看護学領域紹介」 ・オープンキャンパス対面開催担当
(4)その他、自発的活動など